



Subaru

男声合唱団

ニュース№462 '14. 5. 6



「イベリス」イベリア半島に因る名をもつ外来種。

9+9コンサート感想文 を投稿してもらいました。掲載します。

「昂」第9回コンサートにとりくんで

BR 吉川勝彦

私は男声合唱団「昂」に昨年1月に入団して、この1年余りは歌に明け暮れた歌漬けの毎日であった。「昂」の一メンバーとして、昨年春の「千秋昌弘テノールソロコンサート」、大阪うたごえ祭典、うたごえ祭典の合唱発表会の予選と本選、そして各種のイベントのうたごえでの参加等何回かの舞台に立った経験を踏まえて、満を持しての「晴れの舞台」“よき春よ立ち上がり！第9回「昂」コンサート”は私の「合唱人生」にとって記念すべきコンサートとなった。

23曲をすべて暗譜で2時間余りにわたって歌い続けることは始めての経験である。曲のそれぞれが魅力的な作詞と曲想に彩られていること、説得的で人間味あふれるメッセージ性を含んでいること、男声合唱の各パートのよき音色を引き出す編曲がなされていること等歌いこんでいく中で理解が深まり、舞台で歌う中で再確認できて幸せであった。

また、毎回のレッスンのはじめに発声の指導をかなりしつこくされたことで歌うことへの執着心が呼び起こされた。特に、合唱曲を創りあげていくことへの指揮者の“情熱”とでもいえばいいのか、初心者にもよくわかるように、その歌の成立背景の説明や作詞者・作曲者の“思い”的紹介もよかったです。下手な歌い手たちを一人前の表現者にしようと、歌詞の1小節1小節ごとの声の出し方、表現の仕方について執拗なまでに追求されるその姿勢を目の当たりにして、「昂」の聴き手としては経験できない、歌い手としての喜びと苦しみを味わうこととなった。

コンサートについての評価・感想については、団員(メンバー)の経験や立場によって、また各パートのパートリーダーやそれぞれの歌い手によっても違うであろう。指揮者は演奏曲目の出来・不出来について詳細にチェックされたのではないか？興味のあるところである。

今、コンサート後に団員に配られたCDを聴いているのだが、印象深い曲を2・3あげるとすれば、レッスン時にも手こずった曲であろう。

(1) 「美しき碧きドナウ」 練習時の出来具合からみて、予想通りの合唱になっているなあ！微妙にテンポがずれていて、パートがひとつにまとまらずに、いくつかのところでパートごとに合唱している・・。しかし終章になってぴったりと嵌り、各パートがひとつになって4つのパートがそれぞれ美しい声で響きあって終わっている。最後になってひとつに乗ってきた！・・。“よくここまでまとめたなあ！”が率直な感想です。練習時間がもっとあれば、もっと軽やかに、もっと明るくリズムよく歌い上げたのでは・・・。

(2) 「母なるヴォルガを下りて」「音戸の舟唄」は昨年のうたごえ合唱発表会で“推薦”をもらえず入賞も出来なかつた因縁の曲である。（“中声部がばらばらで、音が合っていない、強弱のつけ方の理解の仕方がパートで違う？・・・etc”、酷評に心を痛めていたが・・・）2年越しに力を入れてきたその結果、「母なるヴォルガを下りて」はこれまで歌ってきた中では一番いい声が出ている、声のボリュームの出し入れも各パートでまとまっている、ヴォルガ川の流れの情景が表現できているのでは？とかなり甘い自己評価をしている。

「音戸の舟唄」はソリストの明るく透明感のある見事な美声とともにバックの舟引き人の掛け声とがうまく調和していて、CDを聴きながら、「うわー！いい曲だ！」と思わず叫び、理屈抜きに拍手を送った。出色の出来だと思う。

この2曲はよく練習し、舞台に何度も上げてきたその成果がようやく現れたと評価できるのではないか。

- (3) 日本民謡の3曲（安里屋ユンタ、八木節、音戸の舟唄）は日本人にとってリズムや曲想が合っているのか、歌のうまい下手にかかわらず、好評なのではないか。国民性が日本の民謡に脈打っているといえばいいのか？日本民謡は「昂」の十八番（おはこ）として、大事に歌い続けていきたいと思う。
- (4) 林光作曲の「天の火」「降りつむ」「ねがい」は難曲である。微妙な和音が次々と変化しながら続く。初心者にとって音程の確保とともに歌詞の表現が難しい。うまく合唱が嵌れば印象深い魅力的な曲となる。なんとも離れがたい魔力を持っている。

メッセージ性の高い曲は今回のコンサートでも大きな部分を占めていた。「昂」らしい特徴のあるコンサートになくてはならない曲の数々・・「放射能」「街を返せ」「春なのに」「花は咲く」、「天の火」「降りつむ」「ねがい」、「死んだ男の残したもの」「ゆらゆら春」「人間の歌」「川の流れのように」の11曲。これらの曲に対しては「アンケート」の評価は非常に好意的である。入場者1000名の1/10の100人余りの「アンケート」提出の方々は非常に大きな感動をもって賞賛されている。

- ・心に沁みた。
- ・訴えがしっかりと合唱で身に沁みました。
- ・林光、谷川俊太郎など同時代を生きた人たちの合唱曲で涙があふれてきました。
- ・涙なしでは聴けない曲。
- ・力強さに圧倒されました。
- ・一曲一曲丁寧な合唱に感動し熱くなりました。一曲ごとの切々たる響きに胸を打たれました。
- ・力強く豊かに歌いあげられて感動しました。
- ・やさしい曲をやさしく表現されていてさすが！
- ・本当によく声が出ていて“鬪う男”“美しい歌声”。
- ・合唱は歌の最後にみんなの声がひとつにまとまる瞬間が好き！2部からフィナーレへと声と心がまとまっていく様子がよかったです。
- ・“歌で訴えを”と歌い続けて！「放射能」は静かに、「街を返せ」は怒りを込めて力強くてとてもよかったです！「ねがい」心に沁みとおってきた。
- ・魂をゆさぶる歌が多くてよかったです。元気をもらった。力がわいてくる。
- ・私たちの人生とダブってきました。迫力を強く感じた。勇気をもらった。
- ・「死んだ男の残したものは」は心に響く歌！素晴らしい歌唱力に圧倒され、心にズシンと響きました。
- ・集中した素晴らしい演奏、深い味わいのある歌。
- ・ロマンに満ちたうたごえを続けてください・・・等々。

このメッセージ性の高い曲群は「昂は発足以来一貫して選曲がベストですね。他に類なき独特の視点でしょうか。社会のこと、個々の生活のこと、歴史のこと、ハタマタ未来の夢・・・どの曲も大切な問題を内包しているだけに歌いこみもいい加減にできない・・・歌い手も大変です。聴く方も・・・」との「昂」ファンの方からのありがたいメッセージのとおりであろう。

「昂」のコンサートを初めて聴きに来られた方の一人は「第2部は難しい曲が多いです。普段聞かなかい分教えられました。」と発言しておられる。メッセージ性の曲への“驚き”とともにその重さを受け止めようとする姿勢が見られる率直な意見である。そして続けて、普段聞きなれた「花は咲く」に「思わず一緒に歌ってしまった」、「川の流れのように」「昂」は「懐かしかった」との表現から、聴き手にとって”救い(?)“があったことが感じられるのである。“楽しく聴ける”コンサートにするためにも、よく知られたポピュラーな曲や元気の出る明るい曲を取り入れることも大切だということであろう。

「昂」の演奏曲が多くの方々の心に響き、感動をもって受け入れられたとすれば、それぞれの曲の作詞者・作曲者の思いを指揮者のもとに一つになってまとめ上げようとした団員の熱意と練習の成果である。

しかし耳の肥えた方々の意見として

- ・男声合唱の力強さはよく伝わるが、力みすぎて聴いていて疲れる。もっと気楽に楽しさが伝わればいいのですが・・・
- ・各パートの声を一つにする努力をどれだけしているか、今後の課題です（パート練習をもっと濃密に）。
- ・第1部は高音域全く駄目、“ガサガサ”だった（後部座席の聴き手）。テナーの声が聞こえなかった（2F席）。
- ・ときどき歌い始めが揃っていないのが気になる。

- ・ 第1部はパートの声がいくつも聞こえて揃っていない、「荒削りの魅力」かもしれないが、声をそろえるともっとよくなる。ハーモニーがきれいに聞こえない。透明感がなくなっている。伸びす音に動きがあればもっとよい演奏になる。
- ・ 声をそろえる練習、パートを聴きあう練習をもっとされるともっとハーモニーが生きてくる・・・等々

これらの指摘は「昂」の歌がより多くの人々に一層受け入れてもらえるためにも肝に銘じて取り入れねばならない発言と私は思う。

音程・リズム・歌詞・表現力・パートのまとまり等のそれぞれが、聴き手の耳と心に“豊かな音”として入ったか?それとも“ざわざわとした雑音”として“耳障りな音”として聞こえたか、今回のコンサートにおいても一曲一曲の点検の作業を団としてもして欲しいと思いました。

(2014.4.20 記)

.....

コンサートで「見えてきたもの、見たいもの」

T1 田辺寿夫

中央区地域労組こぶしからのメールはステージ写真つきで、「妻を誘ったのですが、別件があり、参加は私一人でした。友の会の花見の後行きました。アルコールを極力控えたのですが、一部は睡魔との闘い。2部は大丈夫でした。最後尾で聴かせていただきました。「ゆらゆら春」は始めて聞きましたが、いいですね」でした。

コンサート当日は外出でこられなかった近所の人から、わざわざお土産つきであたたかいコメント「つぎ必ずいきます」をいただきました。

はじめてうたごえ運動の演奏会に参加された息子嫁をつれた中年女性は「大変よかったです。男声は低いと思ったけどすごく高い声で美しかった」です。

5月1日にコンサートCDを渡した方の意見を詳しく聞きます。

「見えてきたもの、見たいもの」を断片的に記します。

音作りについて、専門学術的でなく、かつて全日自労の婦人合唱団のように、昂の独自の音を作り、それを土台に専門性に近づく手法があれば・・と。そのためにはパートレッスンの内容向上が必要です。

早目に80名団員へ、ホームページに「熱烈きてほしい」を、演奏、写真、音、声などがほしいです。玄関の歩道脇にかわいい看板があつても・・。案内グッズ、パンフをつくり常に各自持参できるよう。青年への呼びかけに、青年グループに多様な形で参加していきたい。T1にぜひ女性をむかえたい。私は次期総会までに2名は昂にお誘いしたい。

昂の活動をもっと広げるため、団員の長年の貴重な知識を活用して、その幅広い見解と活動を集積して各部内で企画に練り上げたいです。そのための広報の粘り強い献身的な活動はいつも楽しみで敬服しています。ユーチューブにアップ、テレビコマーシャルへの採用などマスメディアの活用を考えたいです。

昂にとっても見過ごせない社会的な多様なテーマに他がクリスマス時期にディアモールで演奏するように独創的な手法で取組みたいものです。

団内コンサートはアンサンブル・カラオケ音源などもっと活用し、今後、もう少し素敵な会場へのランクアップをしたい。今回は素敵な設営でその魅力を発揮して下さい。

(2014.4.20 記)

.....

男声合唱団 昂 第9回コンサートの感想

小池 哲夫 (大阪府庁うたごえ合唱団)

4月6日クレオ大阪中央で行われたうたごえを代表する男声合唱団となった「昂」のコンサートを楽しみに聴きに行きました。千名の会場が満員でした。プログラムはゲスト演奏もなく、シングアウトコーナーもない、全プログラムが「昂」の演奏。平均年齢69歳の歌い手のみなさんが、ほとんどの曲を暗譜で歌されました。その意気込みは立派でした。プロローグの「美しき碧きドナウ」と第1部の石若

雅弥編曲の日本民謡や礫ソングは「昂」の新しい分野への挑戦のように感じられましたが、声がそろわないのでハーモニーが鮮明でなく、音もきれぎれでつながらない。曲が歌い手のものになっていない感じ。う~ん、これはちょっと期待はずれだったかも、と感じながら休憩に入りどうなるだろうと迎えた第2部でしたが、演奏は尻上がりによくなり、さすがは昂と思わせるものになりました。

まず林光の「天の火」は、人間と「火」との歴史を描き、最後に「天の火」(太陽)に由来しない新しい「火」(核エネルギー)によって自らを焼いたと歌う作品で、原発事故があつて以降は初めて聴きました。声がそろい始め(とくにユニゾンでフォルテとなる部分)、言葉もよくわかるようになります、ああ、「新しい火で自らを焼いた」というのは、核兵器のことを言つただけではなかつたのだ、と思い知らされた。ラストのこの大事な一節でしたが、それまでそろつていた声がばらけて(みなさん気負いがあつたのでしよう)残念でした。「ねがい」も引締まつたよい演奏で、男声合唱になると違つた雰囲気になるのを感じました。次に布川事件の被告だった桜井昌司さんが作詞作曲されたという「ゆらゆら春」ですが、これがこの日の白眉をなす素晴らしい演奏でした。春は必ずやってくる。「ゆらゆらと」やってくる。この表現が独特。陽炎の立つ春のことか、と思いましたが、演奏を聴いてみると、「ゆっくりと」「回り道しながら」の意味かなと。長く無実の罪で刑務所に閉じ込められ、それでも希望を失わずたたかいで続けたこの人の生き方が、しっとりと伝わってきました。この世の中も不条理ばかりで、ある意味「監獄」の中のような状態ですが、私たちにも勇気をくれる歌でした。それを情感深くうたいあげたこの1曲で、このコンサートに来てよかったです。フィナーレの「歓びのナーダム」「昂」は歌いなれたレパートリー。うたごえの男声合唱ならではの明るさと勢いのあるコーラスでした。

7名もの初舞台の団員を含めて40名の個性の強い皆さんのが歌われているのはよくわかり、それが「昂」の持ち味とも言えますが、お互いを聞きあい、声をそろえる練習を意識してされると、ハーモニーが生きて、透明感のあるもっとすごい演奏ができるのではと思いました。

(2014.5.3 記)

和泉九条の会出演曲をレッスンしました

5月2日

□ 5月2日(金)の定例レッスンは奥村さんの体操に始まり、本並先生のヴォイストレーニングと指揮、森さんのピアノで、来る5月10日の「和泉九条の会」の出演曲、「天の火」を重点に、「降りつむ」、「街を返せ」、「死んだ男の残したものは」、「ゆらゆら春」、「川の流れのように」と「歓びのナーダム」をレッスンしました。参加は全29名でした。



「ションラ！ ションラ！」、「ピヤオリヤン！ ピヤオリヤン！」

□ 5月10日(土) 和泉九条の会出演

- ・集合(リハ) 12時45分(変更になりました)
- ・出 演 14時 (オープニング出演)

・交通機関；	天王寺 → 和泉府中	JR 阪和線・関西空港線 390円
	1210 → 1232	(JR 関空快速・関西空港行き 4駅)
	1204 → 1226	(JR 阪和線 区間快速 日根野行き 7駅)
	1155 → 1217	(JR 関空快速・関西空港行き 4駅)
	1149 → 1213	(JR 阪和線 区間快速 日根野行き 7駅)

- ・「和泉市コミュニティセンター」(和泉市役所と隣接)まで徒歩10分
- ・赤シャツ、9条バッジ